

研究活動を通して、地域に家族に貢献したい



研究活動に携わった平館高校家政科2年生。前列左から齋藤美嬉さん、高橋蒼さん、井上おりさん、中館由香さん、後列左から和久石大成さん、山村十楽さん、三浦結菜さん、滝川望さん

第66回岩手県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 「学校家庭クラブ活動の部(共同研究)」、 「ホームプロジェクトの部(個人研究)」 両部門最優秀賞受賞 平館高校家庭クラブ

平館高校家庭クラブは、県高校家庭クラブ連盟が主催する第66回岩手県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会の「学校家庭クラブ活動の部(共同研究)」、「ホームプロジェクトの部(個人研究)」両部門で、12校70人が参加する中、最優秀賞を受賞。12月8、9日に青森市で開催される東北大会に出場する。

研究内容について

◎共同研究 つなぎたい！
ハルさんの知恵と技術「西根むらさき染め」への挑戦は、多年草のムラサキの根からとれる染料を用いて行う紫根染がテーマ。市内、紫根染の第一人者である澤口ハルさん(82)が、これまで平館高校に指導で来ていましたが、体調を崩しそれが困難になりました。伝統ある手法を自分たちで守りつなげたいと思い、研究を行いました。

◎個人研究 祖父のためにできること〜食事改善とクッション型枕の提案〜は、

病を患った祖父のために何ができることはないかと思ったことがきっかけで研究に着手しました。

受賞の感想と今後について

◎共同研究 今年の4月から、授業外や夏休みを利用して研究を進めてきました。大変ではありましたが、内容が評価されてとてもうれいす。活動を通して、紫根染が今まで地域貢献に役立ってきたことを学んだ分、絶やしたくないです。次世代へ伝え普及できるように引き続き頑張ります。

◎個人研究 家族と一緒に受賞を驚きました。祖父がどうやったら良くなるかを考え研究を進める中で、実際に効果を感じた時には、やりがいを感じました。大会は通過点で内容もまだまだ道半ば。祖父のためにできることをもっと考えていきたいです。

※同クラブを代表し、共同研究は高橋蒼さん、齋藤美嬉さんに、個人研究は井上おりさんに話を伺いました。

編集後記

▽市芸術祭を取材しました。会場に響く歌声、いろいろな楽器の演奏、日本舞踊などの華麗な踊り、そして郷土芸能の勇壮な舞いなど、様々な演目があり、まさに芸術の秋を感じさせる内容でした。日々の練習、稽古が背景にあると思うと胸が熱くなります。私もさんさ踊りをやっています。我が家にある太鼓を持って踊りたい衝動に駆られました。▽松尾地区ふれあいまつりで、保育所に通う私の息子の作品がありました。取材の立ち止まって、これは何を描いたものだろうかと思いつつ眺めてしまいました。ついこの間までは絵を描くことが出来なかったことを思うと、子どもの成長は早いものだと感心しました。

▽認知症研修会の中で、下河原さんのお話の全てに目からうろこが落ちる思いをしました。認知症の人が取る行動に困ったものだと思うのは、こちら側の都合。脳の衰えによる記憶障害や見当識障害など、認知症の中核症状が進んでも、環境やコミュニケーションの内容によって、行動心理症状は抑えられるそうです。▽同じ体験をしないと人は人のことが理解できない。認知症に限らず、人と人のコミュニケーションは皆一緒。相手のことを思うと、理解しようとする、自分の行動が変わる。すると、段々に相手の行動も変わってくる。認知症だけが特別なわけではないことを考えさせられました。

◎